|  |
| --- |
| １　東広島ＥＳＤ研究大会の開催に当たって |

平成14（2002）年の第57回国連総会で我が国が提案し採択された「国連持続可能な開発のための教育の10年」の趣旨は，その後，平成20年7月に閣議決定された教育振興基本計画に，また，平成20・21年に告示された現行学習指導要領の内容に引き継がれております。そうした中での国立教育政策研究所の「学校における持続可能な発展のための教育（ＥＳＤ）に関する研究」，さらに平成24年3月に発行された最終報告書とリーフレットを通して，各学校におけるＥＳＤが具体的に推進されていくことが大きく期待されています。

広島県教育員会が示した「広島県におけるＥＳＤ（持続可能な開発のための教育）推進」（平成２６年４月）には，ＥＳＤを「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」として，「環境，貧困，人権，平和といった現代社会の様々な課題を自らの課題として捉え，身近なところから取り組むことにより，課題解決につながる新たな価値や行動を生み出すこと，そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動」と説明があります。また，教育の各側面からの総合的・学際的な取り組みの重要性，多面的（批判的）思考や異なる他者と協働する力，主体性の涵養など，児童生徒に身に付けさせたい力，学習指導で重視する能力・態度などが示されています。折しも昨年末発表され，広島県教育の今後のビジョンを力強く示す『広島版「学びの変革」アクションプラン』に謳われる理念は，まさにこうしたＥＳＤの理念と深い整合性を持つことは言うまでもありません。資源の有限性の下で加速するグローバル化の今，求められる教育の在り方の根本的な方向性を示すものがＥＳＤであり，その意義は年々高まっているといえます。

このような時機に，広島大学の共催をいただくなかで，東広島市域の小学校，中学校，高等学校，広島大学，さらに韓国のミチュホル外国語高等学校も交えて，互いの実践の発表をとおして具体的にＥＳＤの在り方等を研究協議することは，今後の教育の在りかたを模索し示す大変意義ある取り組みであると考えています。校種を越えて実践交流を行うこと，一つの市域の学校がまとまってＥＳＤに取り組むことは，地域のよりよい未来の構築に向けた取り組みに貢献することに繋がります。東広島市から，将来にわたって持続可能な社会を構築する担い手を育む教育であるＥＳＤを発信し，広島県のみならず全国の学校や地域に刺激を与えることができれば幸いです。

なお，共催いただいた広島大学をはじめ，大会開催にご尽力いただいた広島県教育委員会，コーディネータ，講演講師，ユネスコ・アジア文化センターの皆様，御後援をいただいたて，東広島市教育委員会，ＡＳＰＵnivＮet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク），公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターの皆様に改めて感謝申し上げます。

平成27年10月29日

東広島ＥＳＤ研究会　代表　松井　太